

## 移住サポートセンターより

函館に移住された方をご紹介します。

### 函館山に導かれ、 移住しました。

今年、雪の降り始めが早いそうです。真白に雪化粧した函館山を眺めながら心躍らせる毎日です。

私は三重県に生まれ学生時代までを過ごし、東京で20年生活し、今年、主人と猫2匹と共に函館に移り住みました。移住してまもなく1年が経とうとしています。よく「親戚がこちらにいるの？」と尋ねられますが、函館には何の縁もゆかりもありません。主人も東京生まれ千葉育ちです。

私達(当時は結婚前)が初めて函館を訪れたのは2013年5月のこと。もともと主人は若い頃に仕事で札幌に来て以来、大の北海道好きだったので、函館は約20年ぶり。私は旅行と言えば沖縄ーと言っただったので、初めての函館でした。

ひと目で函館を気に入り……、と言いたところですが、正直、空きテナントだらけの街に「大丈夫？」というのが第一印象でした。しかし、じわりじわりと函館の街の美しさをやったりとした空気感に魅了されていき、

1泊2日を過ぎて帰るころには「また来たいな」と思うようになっていました。(余談ですが、私が沖縄を好きになったのはのんびりした雰囲気なのですが、函館にも同じようなものを感じました。「島時間」ならぬ「函館時間」があるような……)

すっかり函館が気に入った私達は、翌年冬にもまた来函。さらに年に1度では飽き足らなくなり、年に2度、3度と足を運ぶようになりました。クリスマスファンタジーには3年連続訪れており、市場で年末年始の買い物をするのが恒例行事。初めて来た時から必ず立ち寄る居酒屋には「ただいま」と挨拶するようになっていました。

そんな私達は2016年4月に結婚したのですが、その時主人が冗談半分で言い出しました。「本籍地を函館山にしよう」と。私もただ面白いからという理由で即賛成。函館市役所まで行き、窓口のお姉さんにキョトンとされながら実行しました。ついでの新婚旅行として渡島半島を一周しました(笑)。

何がそこまで？と聞かれてもうまく説明ができませんが、それくらい私達は函館が好きで、もはや夫婦共通の趣味であり、「いつかは函館に住みたいね」が合言葉になっていました。

そして結婚から半年後の2016年秋、運命の出逢いが訪れます。函館

山(本籍地)を見上げる現在の家を見つけたのです……。そこから移住までわずか2か月。今思えば、函館山に導かれたような気がしてなりません。いつも面白いと思うのですが、東京から移住してきたと言っ私達への函館の方の反応は真つ二つに分かれます。「目は「よくそーよく来たね」というもの。そしてもう二つは「ちよっぴり眉をしかめて」「どうしてこんな何も無いところへ？」というもの。

確かに最先端のショップや遊ぶところは「何も無い」のかも知れません。でもここには、それに勝る素晴らしい宝物が山ほどあります。さらに「何もない」こと、それも魅力の一つだと言えると思います。函館に生まれ育った人は当たり前すぎて気が付かないのかも知れませんが、(もしかすると、シャイな函館人の照れ隠し……)

外から来た私達だから気づく函館の宝物はまだまだ潜んでいるはず。これからもそれらを少しずつ見つけていき、いつまでも「函館大好き」、「趣味は函館」な夫婦でいたいと思います。

さて、そんな私は今、函館で何をしているのかと言っと、ガラスの器を作っています。東京ではT系の仕事をしており、仕事の後や休日だけ制作活動をしていましたが、函館移住に機に、アトリエを構え、ガラス作家を本業とさせてもらっことになりました。

函館で暮らすようになってから、ガラスのモチーフにしたい！と思う美しいものや素敵なものにたくさん出会い、ワクワクしています。今はまだ、東京で作っていたものの延長での制作が中心ですが、今後は函館らしいもの、函館にいるからこそ作れるものを、たくさん生み出していきたいです。そんな私のガラスで、微力ではありますが、函館の魅力を発信していきたいなと思っています。



※イカが泳ぐ海のガラスプレートです。今年初めて函館港まつりで「いか踊り」を見て、函館人のイカ愛に感銘を受け制作しました。

この冬から「はこだて工芸舎」様でのお取り扱いが始まりました。お近くにいらした際は、ぜひお立ち寄りください。また、アトリエ兼自宅の一角に、ずっと憧れていた予約制ギャラリーをオープンしました。興味を持っていただけましたら「美鈴硝子」で検索して、Webサイトをご覧ください。けたら嬉しです。

<http://misuzu-glass.com/>

美鈴硝子 田中美鈴